



横山大観：日出處日本



竹内栖鳳：家兔



鶴田吾郎：出動前の陸の荒鷲

軍事郵便絵葉書 に見る 彩管報国の 画家たち

軍事郵便絵葉書
約400枚を
展示

令和4年 7月5日(火)～
10月16日(日)

※ 8月29日(月)に一部展示替えを行います。

開館時間 / 9:30～17:30(入館は17:00まで)

休館日 / 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)

および8月28日(日)。

ただし8月15日(月)は開館。

荻須高徳

和田三造 他

小磯良平

南薫造

鶴田吾郎

中村研一

向井潤吉

小早川秋聲

竹内栖鳳

伊東深水

藤田嗣治

川合玉堂

横山大観

川端龍子

平和祈念展示資料館(総務省委託)

入館無料

東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル33階 Tel: 03-5323-8709 <https://www.heiwakinen.go.jp>



@heiwakinen



軍事郵便絵葉書 に見る

さい かん ほう こく 彩管報国の 画家たち

日中戦争から太平洋戦争期 にかけて「絵筆(彩管)で国に報いる(報国)」という意味のスローガン「彩管報国」のもと、多くの画家たちは、それまで扱ってこなかった戦争や国威発揚をテーマとした絵を描き始めます。更には、従軍画家として戦地に赴く人もいました。

絵葉書には大作の戦争画のほかに、戦地で描かれたスケッチや水彩画が数多く採用されています。展覧会用の油彩画とは異なり、普段の兵士の姿や異国の風景、戦地や国内の日常の風物などをモチーフとした小作品には、画家たちの自由な目線が感じられます。

今に残る絵葉書からは、いかに多くの画家たちが軍事郵便絵葉書の原画提供に協力していたかが分かります。戦闘の場面だけではなく、様々な発想で描くこともまた彼らにとっての「彩管報国」だったのです。今回の展示から、絵葉書の小さな画面に光る画家たちの矜持をご覧ください。



小野寺秋風：入営



小磯良平：香港黄泥涌高射砲陣地奪取



向井潤吉：待機



飛田周山：清潭



高島華宵：武運を祈りて



竹内栖鳳：アレタ立に

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、状況により臨時休館や開催期間変更となる場合があります。ご来館の前にホームページ等でのご確認をお願いいたします。

平和祈念展示資料館(総務省委託)

▶都営大江戸線(都庁前)駅 A6出口より徒歩約1分 ▶東京メトロ丸ノ内線(西新宿)駅より徒歩約5分 ▶JR線、小田急線、京王線(新宿)駅西口より徒歩約10分

